

常盤塾議事録

日時：2016年10月8日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：片平先生、松永さん、古川さん、古城さん、出井さん、今田さん、大下さん、松崎さん、丸山さん、松山さん、安梅さん

アジェンダ

- 1、 今後について
- 2、 一分間スピーチ（長め）
- 3、 今田さんの発表 科学者とあたま

(1) 今後について

今後常盤塾をどう開催するか。

直近では、来月どうするか。

- ・ 提案としては、スカイプ、シニアカー、常盤さんの御宅
- ・ スカイプは汎用性もあり、なんにせよ導入すべき。
- ・ 常盤さんの御宅か、その近くでの開催もありうる。
- ・ 常盤さんが PC をお持ちでない場合、オフィスから貸し出す。
- ・ 来月は常盤さんのお誕生日なので、なるべく直接お会いしたい。
- ・ 今のところ次回開催は通常通り 11 月 12 日（土）。
- ・ 松山さんが、全体としてどうするかを常盤さんに確認。
- ・ その後、お誕生日幹事の出井さんは常盤塾幹事に相談。

(OriHime について)

<http://orihime.orylab.com>

(2) 一分間スピーチ

・松崎さん

10月からの朝ドラ「べっぴんさん」の舞台が神戸。

ファミリアのお話。神戸らしい憧れのブランド

神戸が沈滞ムードだったのが盛り上がる。

べっぴん=特別なもの。

ファミリアとフェリシモ、小山薫堂が組んで、神戸の魅力を伝える取り組みがある。しかし新しいものだけを発信しているだけで、如何なものか。心配である。

・片平先生

縦横深さを入力すると形（枠組み）が出てくる、3Dプリンタの簡単なものは今あるのか？

どのくらいの大きさが入力すると簡単にわかるものが欲しい。

実物が手にとってサイズがわかると良い。

店頭で見るのと持ち帰った後ではサイズ感が違う。

→バーチャルはそこに追いつかない。

引っ越し屋さんの家具のレイアウトで役に立つかも。

空気で膨らませるのが良いのでは。それか枠だけ出てくるのも良い。

・丸山さん

今年のノーベル賞、基礎研究の重要性。企業はすぐに「もの」になる研究をしがち。

ソニーの人曰く、アイボの開発陣はアトム誕生日に発売したかったが、出井社長が自社のブランドを立ち上げたいので却下され、やめた。アトムの誕生日という一生に一回しかないロマンなどが却下されて悲しい。自分のやりたいことを追求する重要性は企業でも同じなのではないか。

出井さんになぜソニーに入ったか。と聞くと、「小さい会社だからすぐ社長になれると思ったから。」という。

・松山さん

ノーベル賞に関連した話題。

大隅さんのインタビュー、「人がやらないことを楽しみなさい。」

これはアカデミックに科学を研究してるから言えることなのでは。
その人の好奇心や探究心は学者に限らず普通の人も持ち合わせている。それを
否定する（=役に立つの？ときくこと）ことをやめたほうが良い。

（片平先生：でもみんながそうになると面白くない？）

片平先生的にはメインストリームは愚かなもの。それがみんな愚かじゃなくな
ったらどうなってしまうのか。そういうのに噛みつくことが楽しい。

世論の流れるは、クリエイティブに生きること。凡人にとっては自由なほど辛
い。

労働集約的な仕事は中国に取られたが、中国でもすでにロボットを導入。

一方で現状、部品の加工や内装などはまだ人間がやっている。

機械は重い部品を移動するアシストに使われている。

花王やキリンの工場はとかはおそらく人がいない。

囲碁の AI について。

AI は囲碁の全体感も理解し、対局ごとに強くなり、チャンピオンも完全に脱帽
している。

IBM のワトソンが作曲、またレシピも作ってる。ガンの薬を見つける。

ワトソンは最初から論文を読むことを見据えている。

人間の直感力などはもう追いつかれるのではないか？

・安梅さん

フランスに保育園における虐待の調査へ向かう。

フランスでは子供の頃から「変な子」を育てている＝自立を大事にしている。

（一方日本では「一緒に」を強調。）

フランスの保育園の子供の 7 割は違う国の人たち。1 歳、2 歳から壁に絵の具で
描いたりしている。このままでは日本が負けそう。

ドイツも、授業という概念がない。楽器をやる子もいるし絵を描いてる子もい
る。日本では服装から何から揃えられる。

先生が教えないでそれぞれ違うことをやっている。社会の授業がない。好きなところを見に行き、絵を描き、エッセイを書く。自分からやらないと進まない。通産省は多様な人材を、と言っているが、指導要領は逆。そこを直したほうが良い。

・ 古川さん（教育のお話に関連して）

学校の頃よく寝ていた。教育は子供にあった刺激を与えなければいけないが、日本では黒板に向かって同じことをする。

日本には集団という文化があるので、教育だけ変えるのは難しい。全部否定するのではなく、どうやったらいいところを吸収するのが大事。

例えば 2000 年以降ノーベル賞の受賞者は世界でも 2 番目。これは全体主義が激しかった時の教育を受けた人たちがとっている。＝同じ教育でも違うように育つのでは。

日本はいい加減なところがある。（例えば宗教。）

先生たちどうしが議論して喧嘩するような世代の交流があった。そこがなくなってしまった。

大学の教師がサラリーマンになった。昔はもっとお金をもらえてなかったのに、それを耐えることがなくなった。

今は進学率が上がったから、頭の平均は下がるのはしょうがない。しかし数パーセントの変人が生き残れる環境を残しておけば良いのではないか。

今の大学生は真面目で、それが嫌だ。どうやったら学べるかとかを考えるべき。でも授業に来る。

片平先生：全然授業出ないで単位取るやつはロクじゃない。両立が大事。

自分の授業は 8 割くらい出席しないと単位が来ない。毎回コメントを出し、面白いものは読んだり、力を注いでいた。

朝まで酒を飲み、いろんな議論が出るような場面が減っている。

・ 古城さん

最近のショック：ホンダとヤマハが提携すること。

80年代、原付がメインだった。一番の売りはスーパーカブ
HY戦争。一週間に1機種新しい商品を出し、最高速も競っていた。
→ 結局業界が疲弊してしまった。
ホンダの敵はヤマハじゃない。敵はパソコンである。
そのパソコンも今や売れない。

片平先生；鯉節の話。最高級の鯉節は跡継ぎがいなくて、潰れそう。
15年ほど前に頑張ろうという動きがあったらうまくいったかも。
→ 虎屋はすごい。いろいろ仕掛けている。
二輪についても本田に責任がある。
スーパーカブは911以上のすごい可能性を秘めているのに、ホンダが重要視せず、愛が足りない。
ただ、スーパーカブを今、日本で使うのは無理。ヨーロッパと違って、日本は免許で50ccしか乗れない。最近では電動自動車真っ盛り。
そういうものにスーパーカブもなれば良いのでは？

・ 出井さん

ノーベル賞に関連。
大隅さんのノーベル賞は、基礎研究が長い間を経て成功した。
ノーベル賞の裏にはとれなかった研究がたくさんある。
研究不正という本を読んでいる。どうして研究者が不正に走るのか。
＝自分のアイデアが時代より早く、実際の研究が追いつかない。後に正しいと分かるケースも。また地位が欲しくてやる人も。
小保方さんも後に正しいとされたらもったいない。
企業の不正にも通じる本。
書いたのは研究のことをよく書く研究者（医者）の黒木さん。

片平先生：パクリは結構ある。とても早く論文が書ける人がたまにいる。あたかも自分のアイデアかのように出版してしまう。そういう人がいる。ちゃんと自分がインスパイアされ、ちゃんと洗練して出版する。悪いと言えるかは微妙。企業では特許を出してから論文を出す。アメリカでは先発明主義。特許がなくても、メモが残っていれば、主張できる。

・ 今田さん

来年の一月いっぱいから海外へ行く。お子さんが海外に行っていたが日本に帰ってきた。お子さんと一緒に海外へ。オーストラリアとかは保護者ビザがある。早期退職今年は1月末で退職できる。学校は2月から学校。

ラグビージャーナリストになる??

ウェリントンには日本人がそんなにいない。ほとんどオークランド。ラグビー留学とかよく聞く。なんでラグビーがそんな強いのか?子供も小さい頃からボールで遊ぶから?フィットネスが年々上がっている。日本が頑張ってもなかなか勝てない。

・ 松永さん

議論の中で創発が生まれる。

情報プランテーションの情報網。

大学の先生に残るために論文提出などが点数化されていたりする。昔のように議論するにはどうすれば良いのか。みんなデジタルでいいねボタンを押すが、そこには知性がない。師弟関係の中でぐちゃぐちゃする光景が必要である。情報を得るのではなく、派閥で議論したりする視点がなくなった。

神戸について今後楽しみなのは、公共空間をどう使うか。

通りを歩けるようにして賑わいを作ることが始まっている。

シェアの考え。クリエイターが集まる街を作って、魅力あるまちづくりを目指している。異人館などしか観光地がなかった。べっぴんさんは土地の持つ魅力を出せている。

丁寧ないいところを磨くのが大事。クリエイターを入れて新しくするのは良いかわからない。

合意形成の取り方がインターネットに近くなっている。公共のシェアリングというのは面白いことだ。

・ 鈴木

横浜の話

・ 大下さん

横浜西口によくいく。

問題は水害。横浜で最大の被害者が出ると言われているが、東京の方が実は危ない。ゼロメートル地帯も以前は報道されなかった。

横浜の駅ビルも避難スペースとかを設けている。

どのくらい投資をするというのも問題。

寺田寅彦の随筆には大昔の人の言い伝えがある。

日本には研究補助の団体がたくさんある。そこからいかに予算を獲得するか。

工学部は企業のいろいろなことに影響を受けすぎる。

＝素晴らしくても、どういう風に活用できるかを聞かれてしまう。

片平先生：東大とそれ以外の大学とどこが違うのか＝世界トップに噛みつく学生がたくさんいるところ。

当時はいた。今はいない。＝中高でませた勉強をしてきた人がいなくなった。

鉄道工学の人にとっては、大学は二流。トップクラスは大学に残らず、国鉄に入る。

工学部の存在意義はどこにあるのか。しかし国鉄はもう弱い。比較ばかりして、開発はできないのは、ポジションが高いため。

東京オリンピックの頃は新しいものを作らないといけなかったが、今は結局技術が会社の外にある。

2020年における新幹線とは、ということが問われている。豊洲云々ではなく他の種類の熱気がほしい。

64年をテコにして時代が変わった。20年はどうか。

例えば、自動運転が流行ったらどうなっていくのか。頭から信じている技術や仕組みが変わるかもしれない。今は衰退している分野がまた復興するかもしれない。

90年、インターネットもない頃に書かれた、100年後のインターネットがどうなるかという本（経産省）について。学者が新しいものを作らなくなることがすでに指摘されていた。学者を集めてそういうことを考えることが今は必要？

いろいろな知恵が普及している＝生産者と消費者が繋がっている。他の企業の情報も知ることができる。

今の子供は、夢を持っているのか？昔は、男の子だったら乗り物とか野球とか。そういう夢が次の20年とかを引っ張る。

→ 最近でも夢はそれなりにある。戦隊もののヒーローとか。オリンピックは夢を与えている。昔はアポロの影響が大きかった=月というフロンティア。

他には、キャプテン翼などの漫画。

大阪万博は日本の技術を主張していた。しかし今は「長寿と健康」。そんなものが楽しいのか？（本来は日本を持続的に続けるという目的。）

少し前は、環境といえばエネルギーだったが、今はIoT。

結局、快適や健康に視点を当てている。例えば風呂の水とかもったいない。綺麗にできないのか？

→ ネットであろうが違おうが、風呂は快適。変わらない。

最近で一番普及したのは電子メール。数秒で海外とやり取りできる。そういうことが万博を変えていたのか？

(3) 今田さんの発表 寺田寅彦著『科学者とあたま』

・「科学は錯覚と失踪の歴史である。頭の悪い能率の悪い仕事の歴史である。」ノーベル賞受賞者の小柴さんの研究も然り。初めからニュートリノの観測を意図していたわけではない。

・ 日本語は形容詞が多い言語。肌で感じる感性を巧みに表現。フランスの化粧品会社には必ず日本人が雇われている。

・ サイエンスは新しいものを生み出していく営み。ただ、何もないところからは何も生まれてこない。既存のものがあるからこそ、既存のものが基礎となって、新しいものが生まれる。

・ 日下部四郎太の言葉『少なく読み、多く考えよ』。他人の意見の借用であってはいけない、自分の頭で考えることの大切さ。

- ソニーのハイレゾは「静寂の音が聞こえる」。技術の進歩とともに、どんどん自然の音に近づく。CDには隙間の音がない、音が途切れる気持ち悪さ。
- 津波と人間。人間は 20 年前の教訓を覚えていない。一方で、釜石の奇跡のような事例も。
- 「科学はやはり不思議を殺すものではなく、不思議を生み出すもの」原発廃止を声高に叫ぶ一方で、宇宙飛行士の功績を高く評価する。被曝放射線量で見れば、後者の方が圧倒的に高いはず。
- 人間が自然を馬鹿にしてきた中で、最も馬鹿にされているのは実は我々人間自身でもある。

連絡事項

- 11 月と 12 月は、小泉武夫著『発酵は錬金術である』（新潮選書）を扱う。参考図書として、同著『発酵』（中公新書）。
- 年明けから、稲垣栄洋著『弱者の戦略』（新潮選書）を扱う。
- 常盤さんの著書の全文 PDF を、後日常盤塾メールで共有予定。